

判例第45/2021/AL号¹

「殺人」を犯した被告人が「犯罪未遂」の場合に属することの確定について

2021年11月25日に最高人民裁判所裁判官評議会により採択され、最高人民裁判所長官の2021年12月31日付決定594/QĐ-CAにより公表された。

判例の源:

被告人グエン・バー・T、ファム・ホアン・T1、ファム・クアン・V、グエン・ディン・アン・Kに対する「殺人」の刑事事件に関する2021年9月24日付けハノイ高級人民裁判所刑事控訴審判決第395/2021/HS-PT

判例の内容の位置:

「裁判所の認定」部分の第4段落及び第5段落

判例の内容の概要:

- 判例の事実:

被告人は意図的に被害者の生命の剥奪行為を行い、被害者の健康損害比率は100%である。

- 法的解決策:

この場合、裁判所は、人の死亡結果はまだ発生しておらず、被告人は「犯罪未遂」の場合に属する「殺人」の罪について刑事責任を負わなければならないことを確定する。

判例に関連する法令の規程:

2017年に補充された2015年刑法第15条、同第123条。

判例のキーワード:

「生命の剥奪行為」、「健康損害比率100%」、「犯罪未遂」、「殺人」

事件の内容:

事件書類中の資料によると、事件内容は以下のように要約できる。

グエン・バー・Tとファム・クアン・V、ファム・ホアン・T1、グエン・ディン・アン・Kは交友関係にある。2018年初め、グエン・バー・Tはレ・ミンA1（2002年生まれ、ハノイD区O 41在住）と恋愛関係にあったが、2018年末までに二人は破局した。調査を通じて、グエン・バー・Tは、レ・ミンA1がホン・クオック・A（2002年生まれ、ハノイ市L区T、N通り路地344 - 50/1、住居番号9Aに居住）を新たな恋人にしたことを知った。ホン・クオック・Aはグエン・バー・Tの同じグループの古い友人であり、グエン・バー・Tは復讐するためにホン・クオック・Aを見つけて殴りたいと考えていた。

2019年1月5日23時30分頃、グエン・バー・Tは酒を飲んだ後、グエン・ディン・アン・Kに電話して、ホン・クオック・AがTの恋人に対する愛情を尋ねると同時に、Kと話すため

¹ この判例はハノイ市高級人民裁判所裁判官委員会が提出した。

にハノイ市H区Bにある市場に行くようにKに頼んだ。その時点で、グエン・ディン・アン・Kは、グエン・フー・ナム・S（2000年生まれ）、ヴ・アン・K1、及びK2（身元は不明）とともに、C橋とK橋の近くの地域で3台のバイクに乗って遊んでいた。グエン・バー・Tの電話を受けて、S、K1、K2はM市場に行ってグエン・バー・Tに会った。

グエン・バー・Tがグエン・ディン・アン・Kに電話した後、C区域でファム・クアン・Vと会ったので、用事があるので一緒に来るようにVに頼んだ。VとTはバイクでハノイD区のL豪の上まで行き、ファム・ホアン・T1、ファン・トゥアン・A2（2000年生まれ）、DとD、その他の若者2人（身元不明）と会った。DがTにどこへ行くのかと尋ねると、Tは「この犬を探しに行く」（つまりホン・クオック・A）と言い、再びDに「一緒に行くの？」と尋ねた。DとT1、トゥアン・A2、Dと他の2人の若者は同行することに同意した。その後、グエン・バー・Tとファム・クアン・V、ファム・ホアン・T、トゥアン・A2、D、D、そして若者2人がバイクでL豪の上からM市場区域まで移動し、ここでグエン・バー・Tの一団がK、S、K1、K2と合流した。一団の中で、ホン・クオック・Aの家を知っているのはグエン・ディン・アン・Kだけだったので、グエン・バー・TはKに道案内するよう頼んだところ、Kは再び「何があったの？」とTに尋ねた。Tは、「そいつは俺をもてあそんで、俺に噛みついた。俺の恋人を奪い取った。俺がそいつを殲滅しに行くために先導してほしい」と答えた。グエン・バー・Tは、Kが道を示さなければKを敵とみなすと脅した。グエン・ディン・アン・Kは、Tとその一団をL区にあるホン・クオック・Aの家まで先導することに同意した。出発する前に、グエン・バー・TはバイクにガソリンをいれるためH区のV通りにあるガソリンスタンドに行くように言い、さらにVは凶器を取りに行くといったが、KとVがそれを止めた。その後、グエン・バー・TとK、V、T1、トゥアン・A2、K1、S、K2、D、Dと若者2人が5台のバイクに乗り、そのうちトゥアン・A2とT1が29C1-613.93のナンバーの付いた緑色のウェーブに乗り、KとK2は、29B1-936.67のナンバーが付いた黒色のウェーブに乗り、L区のTに向かった。

グエン・ディン・アン・Kが一団をホン・クオック・Aの家の前に連れて行き、グエン・バー・Tが呼びかけたが、ホン・クオック・Aは出てこなかった。Tが「5,000個のガソリンが家全体を燃やすと信じるか」と脅したので、ホン・クオック・Aは怖くなってTに会って話をした。他の者たちは路地の外に出て待っていた。グエン・バー・Tは「彼女が俺の恋人だということを知っているのか。何回キスしたのか。何かしたのか」と言ったが、ホン・クオック・Aは認めなかった。Tは「お前の母親は糞だ」と叫んだ。このとき、ファム・クアン・Vは路地に入って、ホン・クオック・A氏を呼び出して話をした。クオック・Aが、T1が立っている路地の入口に行くと、ファム・ホアン・T1は「この男はとてもハンサムだから、恋人を強奪するつもりだ」と言った。それを聞いたホン・クオック・Aはファム・ホアン・T1の肩を押したところ、T1は足で2回蹴りつけた。ホン・クオック・Aは一段がたむろしている路地の入口に来ると、ファム・クアン・Vはホン・クオック・Aに座るように言った。ファム・ホアン・T1は右足でホン・クオック・Aを1回蹴りつけ、その後棒とレンガを拾い、それで殴ろうとしましたが、トゥアン・A2によって阻止されたため、T1はレンガと棒を投げ捨てた。その時、グエン・バー・Tは「Dはそいつを打ちのめせ」と発言したため、Dが突入してホン・クオック・Aを足で蹴り、被害者Aは横向きに倒れた。ファム・

クアン・Vは駆け込んでホン・クオック・Aを起こし、「囚人を殴る方法を知っているか」と言って、ホン・クオック・AがVの手を押しつけた。Vが膝を使ってホン・クオック・Aの腰のあたりを1回押し込んだので、ホン・クオック・Aが約1メートルほど後退して元の位置に戻ったところ、Dが突入して顔面をホン・クオック・Aを足で蹴り、転倒させた。クオック・Aは路上に横たわり、両手で頭を抱えていた。Dは足でホン・クオック・Aの頭部あたりを3〜4回踏み続けた。それを見てファム・ホアン・T1が突入し、ホン・クオック・Aの背面を足で1回蹴った。その時、グエン・バー・Tが路地の中から来て、ファム・クアン・Vに「木があるよ」と言うと同時に、近くにあった約40 cm x 60 cmの面積を持つ木片をVに見せた。Vは木片を拾い上げて振ったところ、ホン・クオック・Aの頭に当たって木片は二つに砕けた。その時、グエン・ディン・アン K と K2 は、Tの一団がホン・クオック・Aを打ちのめして、車に乗って帰宅するのを見守っている。Dは割れた木片を拾いあげてホン・クオック・Aを殴り続けた。被害者がまだ道路に横たわっているとき、ファム・ホアン・T1は足でホン・クオック・Aの顔を踏みつけ、グエン・バー・Tは「殺したのか」と言った。その後、ファム・クアン・Vはバイクに乗ってクオック・Aが横たわっている場所に戻り、「お前はまだそこに横たわっている。明日、俺はお前がそこに横たわっていなければ、私は引き続きお前を殴る」と言った。グエン・バー・Tも「もう死んだのか」と言ったが、ホン・クオック・Aは身動きするだけで何も言えなかった。その後、一団は車に乗って帰宅し、ホン・クオック・AはV病院の救急室へ運ばれた。

2019年1月8日及び2019年1月10日、L地区警察の捜査警察機関は、グエン・ディン・アン・K、ファム・ホアン・T1、ファム・クアン・Vの3人を緊急逮捕した。事件後、グエン・バー・Tは逃走していたが、2019年7月14日に出頭した。この後、この事件は権限に従った解決のためにハノイ市警察の捜査警察機関に移送された。

被害者ホン・クオック・Aに対するH保健局法医学センターの2019年1月16日付傷害法医学鑑定書68/TTPYの結論として、以下のように判断された。「被害者ホン・クオック・Aは鼻を骨折し、両側の蝶形骨洞に液体が溜まった。左半球硬膜下血腫、くも膜下腔血腫、脳浮腫は両半球にあり、右正中線の脳境界が消えている。脳のバランスが崩れた。頭皮の右頂点の下に血腫。左側額の腫れ。両側の前腕の打撲と腫れ。肩、左手の甲に腫れ。結論: ホン・クオック・Aは外傷性脳損傷を負い、現在植物状態で暮らしている。外傷性脳損傷による後遺症の程度はまだ評価されていないため、退院時に追加の評価が推奨される。物によって傷害を負った可能性が高い。健康損害率は100%。」

民事責任: 事件の捜査段階で、ファム・タイン・T2 (被害者ホン・クオック・Aの合法的代理人) は、被告人ファム・ホアン・T1、ファム・クアン・V、グエン・ディン・アン・Kの家族の代表者が総額75,000,000VNĐを賠償したことを確認した。T2は、この事件が裁判になったときも被告人に対し、ホン・クオック・Aに賠償するよう求め続けた。

2020年5月18日付のハノイ市人民裁判所の刑事第一審判決150/2020/HSSTでは、以下が決定された。

被告人グエン・バー・T、ファム・クアン・V、ファム・ホアン・T1、グエン・ディン・アン・Kを「殺人」で有罪と宣言する。

グエン・バー・Tに対して刑法第 123 条第 1 項 n 号、同第51条第1項s号、同第 52 条第 1 項 h号、o号、同第 39 条、同第48条、同第 58 条を適用する。

ファム・クアン・Vに対して刑法第 123 条第 1 項 n 号、同第51条第1項s号、同2項、同第 39 条、同第48条、同第 58 条を適用する。

ファム・ホアン・T1に対して刑法第 123 条第 1 項 n 号、同第51条第1項s号、同2項、同第 39 条、同第48条、同第 58 条、同91条、同101条を適用する。

グエン・ディン・アン・Kに対して刑法第 123 条第 1 項 n 号、同第51条第1項s号、同2項、同第 39 条、同第48条、同第 58 条を適用する。刑罰は：

- 被告人グエン・バー・Tを終身刑に処す。期間は2019年7月14日から計算される。
- 被告人ファム・クアン・Vを懲役20年に処す。期間は2019年1月10日から計算される。
- 被告人ファム・ホアン・T1を懲役12年に処す。期間は2019年1月8日から計算される。
- 被告人グエン・ディン・アン・Kを懲役11年に処す。期間は2019年1月8日から計算される。

民事責任について：各被告人に対し、ファム・タイン・T2が代理人を務めるホン・クオック・Aへの賠償金総額1,104,069,000VNDの支払いを命じる。その中で、割合に従って分割すると、グエン・バー・Tは400,000,000VND。ファム・クアン・Vは300,000,000 VND、既に5,000,000 VNDは補償されているが、さらに295,000,000VNDを支払わなければならない。ファム・ホアン・T1は250,000,000 VND、既に65,000,000VNDが支払われているが、さらに185,000,000 VNDを支払わなければならない。グエン・ディン・アン・Kは154,069,000VND、既に5,000,000 VNDが支払われているが、さらに149,069,000 VNDを支払わなければならない。

加えて、第一審裁判所は遅延利息、物的証拠の処理、訴訟費用の決定及び法令の規定に従った控訴権を通知した。

2020年5月25日、被告人グエン・ディン・アン・Kは減刑を求めて控訴した。

2020年5月26日、被告人グエン・バー・Tは減刑を求めて控訴した。

2020年5月28日、被告人ファム・クアン・Vは減刑を求めて控訴した。

2020年5月29日、被害者の合法的代理人であるファム・タイン・T2は、被告人グエン・ディン・アン・Kの主張は真実ではないとして、各被告人らの刑の加重を求める控訴を提起し、刑法第123条第2項を適用する観点は重要であると述べた。賠償額もホン・クオック・Aを救うために費やされた損失に比べれば相当でないとして、判決の再検討を求めている。

2020年5月26日付異議申し立て決定05/KN-VTVKSにおいて、ハノイ市人民検察院院長は、刑法第23条2項を適用して被告人ファム・クアン・Vに対する刑を加重し、被告人グエン・ディン・アン・Kの刑を減輕する内容で、第一審判決に異議を申し立てた。

控訴審公判で、各被告人は減刑の控訴を維持した。被害者ホン・クオック・Aの合法的代理人は控訴全体を取り下げて、被告人ファム・クアン・V、グエン・ディン・アン・K、ファ

ム・ホアン・T1の減軽を提案した。

ハノイ高級人民検察院の代表はすべての異議申し立てを取り下げた。被告人グエン・バー・Tの刑はそのまま維持、被告人ファム・クアン・V、被告人グエン・ディン・アン・K、被告人ファム・ホアン・T1については損害賠償という新たな酌量すべき事情があるとして刑を減軽することを提案し、各被告人は控訴審で約6～12か月の懲役刑となった。

被告人グエン・バー・T及び弁護人である弁護士は被告人が困難な環境（被告人は幼い時から父の顔を知らない。母親は自営業で低収入。被告人は文字を読むことができず、仕事もない）にあったこと、犯罪の後にとても後悔していること、減刑が検討されることを期待していることを陳述した。

被告人ファム・ホアン・T1及び弁護士は、T1は犯罪時に15歳4か月になったばかりであったこと、困難な家庭環境にあったこと、母を早くに亡くしたこと、父方の祖父が戦争勲章で表彰されていることを理由に減刑の検討を提案した。審理の後に、家族に追加で35,000,000 VNĐを賠償することを依頼した。

被告人ファム・クアン・V及び弁護士は、被告人は困難な環境にあり、祖母に300,000,000 VNĐを被害者に対して賠償することを依頼し、被告人の叔父である烈士（仮和訳者注：戦死した兵士のこと）グエン・ヴァン・Aの祖国貢献証書を提示して、被告人の減軽を提案した。

被告人グエン・ディン・アン・Kはその犯罪行為につき被害者の家族に謝罪し、同時に自分の家族に判決施行義務、被害者に対する150,000,000 VNĐの賠償の履行を依頼して、減刑を提案した。

被告人グエン・ディン・アン・Kの弁護士は刑法第123条1項による被告人の起訴は判例第17号の適用必要性に合致しないで同2項で審理すべき、被告人に不利な異議申し立ての取り下げは刑事訴訟法第336条に反する、被告人は民事上の賠償義務を完全に履行済みであると述べて、被告人の減軽を提案した。

検察院代表は上記の観点を維持する議論を行った。

被害者の合法的代理人は被告人ファム・クアン・V、被告人グエン・ディン・アン・Kの家族が第一審判決に従った民事賠償責任を履行し終えたこと、被告人ファム・ホアン・T1が35,000,000 VNĐを追加することを確認した。控訴審公判において、被告人全員が被害者に謝罪し、犯罪行為につき後悔していると述べ、被告人全員が困難な環境にあるとして被害者からの控訴を取り下げ、被告人ファム・クアン・V、被告人グエン・ディン・アン・K及びファム・ホアン・T1に対する減刑を提案した。

裁判所の認定:

事件内容に基づき、公判における争訟結果を踏まえて、審理合議体は以下のように認定する。

[1] 第一審段階の訴訟進行機関は、刑事訴訟法の規定に従って、権限、手順、手続を正しく実施した。

[2] 控訴審公判において、ハノイ高級人民検察院は異議申し立てを全て取り下げた。被

害者の合法的代理人は被告人に対する刑の加重を求める控訴を取り下げた。そこで、審理合議体は刑事訴訟法第342条及び第348条の規定に従った異議申し立て及び控訴に対してのみ控訴審審理を行う。

[3] 控訴審公判において、全ての被告人は自らの行為は第一審判決が提示した内容と同じであると認めた。被告人の自認の言葉は相互に一致し、証人の証言と一致し、捜査の鑑定結論及び他の資料、証拠と一致するので結論として十分な根拠を持つ。2019年1月6日1:00ごろ、ハン・クオック・Aに嫉妬したグエン・バー・Tはグエン・ディン・アン・Kに先導するよう頼み、ファム・クアン・V、ファム・ホアンT1も一緒にホン・クオック・Aの自宅、ハノイ市L区N、に行った。到着すると、グエン・バー・TはT1、V、その他の物に手、足、木の棒を使って被害者を繰り返し攻撃するよう指示し、その結果ホン・クオック・Aは鼻の主要な骨を折って上顎洞と第二蝶形骨洞の横に液がたまった。左半球硬膜下血腫、くも膜下腔血腫、脳浮腫は両半球、右正中線の脳境界線が消えた。脳システムのバランスが崩れた、頭皮の右頂点の下に血腫、左側額の腫れ、両側の前腕の打撲と腫れ、肩、左手の甲の腫れ、外傷性脳損傷がある。現在は植物状態で健康損害率は100%である。

[4] この事件には共犯者がおり、各被告人の行動は特別に危険である。グエン・バー・Tは被害者が恋人を奪ったと考え、復讐するために他の者を伴ってホン・クオック・Aの家に行って、被害者を捜す目的を「そいつを殲滅するため」と明言した。ファム・クアン・V、グエン・ディン・アン・K、ファム・ホアン・T1は被害者と争いはなかったが、それでもグエン・バー・Tの指示に従うことに同意した。各被告人は、多数人が同じ人を殴り、体の主要な部位に同じ衝撃を与え、被害者が死に至る可能性があるという危険な性質と結果を認識していたにもかかわらず実行した。手足を使って、繰り返し人の顔を殴ったり、攻撃したりする行為をした。被害者が動かなくなるまで木の棒で被害者の頭を殴った。立ち去る前にも「殺したのか」「もう死んだのか」と尋ねており、各被告人の無法者的性質と共同で被害者の命を奪うことに故意があったことがはっきりと表れている。このように、第一審裁判所が刑法第123条1項n号に基づいてグエン・バー・T、ファム・クアン・V、ファム・ホアン・T1、グエン・ディン・アン・Kを「殺人」の罪で審理したことは根拠がある。

[5] H保健局法医学センターの2019年1月16日付法医学傷害評価第68/TTPYの結論によれば、「ホン・クオック・Aは外傷性脳損傷を負い、現在植物状態で生活しており、健康損害率は100%」である。このように、本件では、被告らは意図的に被害者の生命を奪うことを目的とした行為を行ったが、死の結果は生じなかったので、刑法第15条が規定する犯罪未遂の場合となる。

[6] グエン・バー・Tの控訴についての検討: 被告人は、他人に犯罪を提唱し、誘惑し、指導して犯罪行為を実施させた主体である。被害者を直接殴ったわけではないが、グエン・バー・Tはファム・クアンV、ファム・ホアンT1、その他数名にホン・クオック・Aを殴るよう指導した。ファム・ホアン T1（18歳未満）を教唆して犯罪を実行させた。被告人は人格が悪く、今回は再犯となる罪を犯したため、第一審ではグエン・バー・Tが事件の主要な役割を果たしたと確定したことは正しい。刑法第57条3項（犯罪未遂の場合の刑罰の規定）は「犯罪が未遂の場合については、適用する法の条文に最高刑を終身刑又は死刑とする規定が

ある場合は、20 年を超えない刑罰を適用する」と規定する。段落[5]で述べた被告人の犯罪行為の結果と照らし合わせると、被告人に終身刑を適用することは不適切であるため、第一審の判決を修正し、グエン・バー・Tに対する刑を減軽する必要がある。グエン・バー・Tは罪を認めて出頭し、控訴審公判で反省の態度を示したが、犯罪の性質と程度、被告人の役割、引き起こされた結果を考慮すると、被告人の更生と教育、一般的な抑止のために最大限の刑罰を適用する必要がある。

[7] ファム・クアン・Vの控訴についての検討：被害者との間に争いはなかったが、グエン・バー・Tが復讐をしようとしたところ、ファム・クアン・Vは即座に同意した。現場に到着し、Dがホン・クオック・Aを蹴ると、ファム・クアン・Vが飛び込んで被害者を起こして「囚人を殴る方法を知っているか」と言った。その後、Vは膝を使ってホン・クオック・Aの腰の部分を押し、木片を拾い上げて振り上げて被害者の頭に当てて、木片は二つに砕けた。ホン・クオック・Aが横たわっていた場所に戻ると、Vは「お前はまだそこに横たわっている。明日、俺はお前がそこに横たわっていなければ、私は引き続きお前を殴る」と言った。上記の一連の行為は、ファム・クアン・Vが被害者を直接攻撃した者としての役割を示すものであり、ホン・クオック・Aが身を守る能力を失ったとき、被害者を見捨てたものである。その行為は厳しく処罰されなければならない。しかし、ファム・クアン・Vはグエン・バー・Tに唆された者である。第一審審理の後、被告人の家族は被害者の家族に305,000,000 VNĐを追加して賠償した。被害者の家族の代表は被告人の刑の軽減を求めている。被告人の家族は被告人Vの叔父である烈士グエン・ヴァン・Aの祖国貢献証書を提示した。このように、ファム・クアン・Vには、刑法第51条第1項b号および第2項に規定されている新たな酌量すべき事情を適用する権利があり、被告人の控訴を認めて刑罰の一部を軽減する根拠が存在する。

[8] グエン・ディン・アン・Kの控訴についての検討：被告人Kはホン・クオック・Aの家を知っていた唯一の者である。公判の争訟において、Kがグエン・バー・Tや他の多くの者を導いて殴るべき被害者を見つけさせることをよくわかっていたが、それでも被告人Tへの敬意からやったことを示した（Tと他の被告の供述に適合する）。グエン・ディン・アン・Kはホン・コック・Aへの暴行には参加しなかったが、現場に居合わせ、多くの者が被害者を残忍に攻撃すること止めることなく見守った。被告人の行為は、意図的に被害者を生命の危険にさらす状況に陥らせ、起こり得る結果を予見しながら状況の展開を放置する無関心な態度をとったため、第一審裁判所は、グエン・ディン・アン・Kが共犯として他の被告人と同じ罪名、量刑の枠としたことは根拠がある。状況と被告人の行動を検討すると、判例第17番、17/2018/ALの内容と符合しないため、弁護士が示唆する上記の判例法を適用する十分な根拠はない。被告人には幫助者の役割があった。現在は後悔して、一審判決の決定に従って全額賠償することを家族に依頼した（150,000,000 VNĐ）。被害者の家族の代表は被告人の減刑を求めている。このように、グエン・ディン・アン・Kには刑法第51条1項b号、同2項の規定により減刑を適用することができる。控訴を認めて被告人の量刑の枠の中で最も低いものとするに根拠がある。

[9] ファム・ホアン・T1についての検討：犯罪当時、被告人ファム・ホアン・T1の年

年齢は15歳4か月になったばかりであった。T1はグエン・バー・Tに犯罪を唆されたが積極的に行為をした者である。被告人の行為は、ホン・クオック・Aが100%の健康損害を負うという結果を引き起こすのに貢献した。そのため、更生と教育のために第一審が被告人に懲役刑を適用して社会から一定時間隔離することは根拠がある。ファム・ホアン・T1は控訴をしていないが、刑法第91条、同第101条、第57条3項を参照して、最長で法律の条文が規定する2分の1を超えない刑罰の適用を検討する必要がある。第一審が被告人を12年の懲役に処したことは、刑法第101条2項で未成年者に対して規定する範囲を超えているので、再調整することが適切である。それ以外に、ファム・ホアン・T1は幫助者の役割もあり、第一審後に被告人の家族は被告人に対して35,000,000 VNĐを追加で賠償しているので、第一審判決を修正して、被告人を減軽する根拠がある。

[10] 民事責任について：ファム・タイン・T2は民事損害賠償の内容につき控訴しないので、民事責任の部分の第一審判決を維持するが、各被告人は損害賠償義務を履行する金額を記載する必要がある。

[11] 訴訟費用について：控訴が認められるので各被告人は控訴審訴訟費用を負担する必要はない。

上述を踏まえて、

決定

刑事訴訟法第342条、同第348条、同第355条1項b号、第357条1項c号、裁判費用に関する国会常務委員会の2016年12月30日付決議326/2016/UBTVQH14に基づき、

ハノイ市人民検察院院長の控訴及び被害者の合法的代理人の控訴につき、控訴審手続に従った解決を停止する。

被告人グエン・バー・T、被告人ファム・クアン・V、被告人ファム・ホアン・T1、被告人グエン・ディン・アン・Kにつき、控訴を認めて、第一審判決を修正し、減刑する。

刑法第123条1項n号、同第51条1項s号、同第52条1項h号、o号、同第15条、同17条、同第57条3項、同第58条を適用し、被告人グエン・バー・Tを「殺人」の罪で懲役20年に処し、2019年7月14日から計算する。

刑法第123条1項n号、同第51条1項s号、b号、同2項、同第38条、同第15条、同17条、同第57条3項、同第58条を適用し、被告人ファム・クアン・Vを「殺人」の罪で懲役19年に処し、2019年1月10日から計算する。

刑法第123条1項n号、同第51条1項s号、b号、同2項、同第15条、同17条、同第38条、同第54条、同第57条3項、同第58条を適用し、被告人グエン・ディン・アン・Kを「殺人」の罪で懲役10年に処し、2019年1月8日から計算する。

刑法第123条1項n号、同第51条1項s号、b号、同2項、同第15条、同17条、同第38条、同第57条3項、同第58条、同第91条、同第101条を適用し、被告人ファム・ホアン・T1を「殺人」の罪で懲役9年に処し、2019年1月8日から計算する。

各被告人は第一審判決の決定に従って、被害者に対して損害賠償をした。具体的金額

は、被告人ファム・ホアン・T1は35,000,000 VNĐ（ハノイ市民事判決執行局における2020年10月9日付領収書番号004211）、被告人グエン・ディン・アン・Kは150,000,000 VNĐ、被告人ファム・クアン・Vは300,000,000 VNĐ。控訴審の公判において、被告人と被害者の合法的代理人は被告人グエン・ディン・アン・Kと被告人ファム・クアン・Vが第一審判決に従った民事責任を履行し終わったことを確認した（金額は超過しているが、被告人の家族が望んだものであり、返還請求はできない）

控訴審訴訟費用：各被告人は控訴審訴訟費用を負担しなくてもよい。

第一審判決のその他の決定は控訴期限、異議申し立て期限の日から法的効力を有する。

控訴審判決は宣告の日から法的効力を有する。

判例の内容

“「4」 この事件には共犯者がおり、各被告人の行動は特別に危険である。グエン・バー・Tは被害者が恋人を奪ったと考え、復讐するために他の者を伴ってホン・クオック・Aの家に行って、被害者を捜す目的を「そいつを殲滅するため」と明言した。ファム・クアン・V、グエン・ディン・アン・K、ファム・ホアン・T1は被害者と争いはなかったが、それでもグエン・バー・Tの指示に従うことに同意した。各被告人は、多数人が同じ人を殴り、体の主要な部位に同じ衝撃を与え、被害者が死に至る可能性があるという危険な性質と結果を認識していたにもかかわらず実行した。手足を使って、繰り返し人の顔を殴ったり、攻撃したりする行為をした。被害者が動かなくなるまで木の棒で被害者の頭を殴った。立ち去る前にも「殺したのか」「もう死んだのか」と尋ねており、各被告人の無法者的性質と共同で被害者の命を奪うことに故意があったことがはっきりと表れている。このように、第一審裁判所が刑法第123条1項n号に基づいてグエン・バー・T、ファム・クアン・V、ファム・ホアン・T1、グエン・ディン・アン・Kを「殺人」の罪で審理したことは根拠がある。”

“「5」 H保健局法医学センターの2019年1月16日付法医学傷害評価第68/TTPYの結論によれば、「ホン・クオック・Aは外傷性脳損傷を負い、現在植物状態で生活しており、健康損害率は100%」である。このように、本件では、被告らは意図的に被害者の生命を奪うことを目的とした行為を行ったが、死の結果は生じなかったので、刑法第15条が規定する犯罪未遂の場合となる。”